



～がバカすぎて

朝晩が冷え込み、毛布が恋しい季節になりました。体調管理には気を付けましょう。
また、日暮れが早くなってきました。通勤時の運転も気を付けましょう。

さて、今週水曜日、図書室前の新刊コーナーで「新！店長がバカすぎて」という本を見つけた。
タイトルが面白そう。表紙絵も楽しそう。2～3ページ読んでみて、やっぱり面白そう。
ということで、その晩お借りして読み切った。

「『バカすぎて』が面白かった」と、図書担当のF先生に伝えたら、「前作もありますよ」と。
早速、前作の「店長がバカすぎて」を探し、木曜日にお借りして読み切った。

店長がバカで腹が立って、給料も安いんだけど、辞めずに働く主人公。
共感できる部分もあり、働くことのやりがいについても考えさせられる。
それでいてドラマティックな展開に思わず引き込まれていく。
何より、作者の本に対する愛情が伝わってくる作品だった。

次の言葉が胸に刺さった。

**「世界がどう変容しようと、私たちにはやるべきことがちゃんとある。
無力感を呪ったって仕方がない。正解かどうかなんて考えても仕方がない。
目先のことをするだけ。そうやって時代と対峙するの」**

テレビのニュースを見て、震え、落ち込む主人公に向けて発せられた言葉。
確かにそう思う。コロナを呪ったって仕方がない。
世界情勢は怖くなるばかりだが、怯えていても時代がよくなるわけがない。
やるべきことをちゃんとやって、時代と対峙するしかないよな、と一人うなずく。

それにしても店長は本当にバカなのか？ バカすぎて、というのは、バカの最上級なのか？
それともバカを通り過ぎて一周回って、店長は天才なのかも？ といった疑問も出てくる。
と同時に、店長を校長に置き換えてみる。
長々と挨拶をする、周囲を苛立たせる、おいおい、自分もこんな長になっていないか？
「『校長がバカ過ぎて』を書いてみんなか？」とI川先生に投げかけてみたが、丁重に断られた。
「はい、喜んで！」と引き受けられたら、それはそれでちょっと悲しいかもしれないけど。

まだまだ自分が出会ったことのない面白い本、考えを深めてくれる本がたくさんある。
秋の夜長、スマホをちょっと伏せて、読書を楽しむ時間をとりたいと思うこの頃。
みなさんもどうですか？